

図書だより

秋号

平成 29 年 9 月

文京区立本郷台中学校

学校司書 松田飛鳥

9月23日は愛馬の日です。「天高く馬肥ゆる秋」このことわざは本来、夏の間にはたくさん草を食べて力をつけた馬に乗り、匈奴が略奪のために大挙して北方より攻め入ってくるので、警戒を怠らないようにという意味だったそうです。現在は過ごしやすい季節となったことを表すことわざとなっています。

野性の馬が生息していることで有名な都井岬は宮崎県にありますが、岬の灯台をすぎると鹿児島県、志布志市志布志町志布志の志布志市役所志布志支所をぬけると大崎という町があり、そこは競走馬の休養地として、運が良ければ海岸を歩く馬を見る事ができるそうです。

さて、秋の読書週間もうすぐはじまります。秋の夜長はぜひ読書を、ということで今回は私のおすすめの本をご紹介します。

図書館の利用案内

利用日時 平日 12:00~17:00 (水曜除く)
貸出冊数 1人2冊
貸出期間 2週間

※返却されていない本があると貸出できない場合があります。返却期限を守りましょう。

※夏休みに借りた本の返却は**9月11日**までです。

※開館予定は変更することがあります。

1学期来館者数 (6月末まで) 延べ

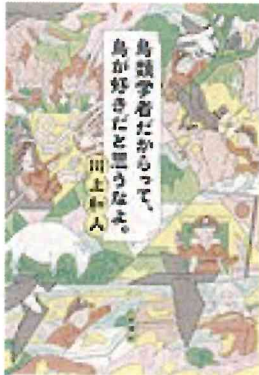
	女子	男子
1年	133名	171名
2年	70名	34名
3年	60名	73名

9月 開館予定

					①	2
3	④	⑤	⑥	⑦	⑧	9
		10~15				
10	⑪	⑫	13	⑭	⑮	16
17	18	⑲	20	⑳	㉑	23
				10~15	10~15	
24	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	30

秋の読書週間が始まります

二学期からは秋の読書週間も始まります。そこで、本を借りてくれた人に一冊につき一つしおりを差し上げます。無くなり次第終了いたします。また、追加で新着本も届きました。ぜひ図書館へ足を運んでみてください。



『鳥類学者だからって、鳥が好きだと思ふなよ。』川上和人 新潮社 2017年 913
文章はコミカルで難しい言葉は出てきません。鳥の事に関する本ですが鳥を研究する者の生態がうかがえる一冊です。——「日本鳥学会の会員数は約 1200 人。『日本タレント名鑑』に載っているタレントまたはモデルの数が1万7千人。学会員が全員鳥類学者だとしても、タレントより希少なのだ。日本の人口を1億2千万人とすると、10万人に1人。つまり、10万人の友達を作らないと鳥類学者と仲良くなれないのである。」——実在する空飛ぶカタツムリの秘密が知りたい人はぜひ読んでみてください。本郷台中にあります。



『RDG レッドデータガールはじめのお使い』萩原規子 角川文庫 2012年 913.6
泉水子は山奥の玉倉神社で育ち、学校と往復する以外ほとくは外出もせずひっそりと暮らしていた。母は公安、東京で暮らしている。父は海外赴任。スポーツできない、勉強できない、PCできない、引っ込み思案で目立たぬように中学校生活を終えようとしていた泉水子に次から次に事件が巻き起こる。父の友人、雪政が息子の深行を連れてやってきた。同い年の二人は互いに同じ高校に通うように半ば強制される。泉水子に隠された秘密とは? 深行が泉水子を守らなければならない理由は? シリーズ 1~5 巻。3 巻まで本郷台中図書館にあります。



『うそつきうそつき』清水杜氏 早川書房 2015年 913.6
第5回アガサクリスティー賞受賞作。国民を管理するために全ての人々に嘘を見抜く首輪がはめられた。非合法ではあるが闇で首輪を外す商売をする少年フラノ。首輪には様々な種類があって、ブルーノ製なら4分弱で除去作業をはじめなければワイヤが内臓モーターでまかれ首が締め始める。その中でも難攻不落の首輪があり、やっと出会えたその首輪は…。残念ながらこの本は学校に無いので小石川図書館で借りて下さい。読んでよかったらぜひ、リクエストを。



『光のうつしえ』朽木洋 講談社 2013年 913.6
「オンザライン」の作者 朽木洋さんが書いた作品です。作者は広島県出身の被爆二世。精霊流しの河原で出会った不思議な女性、近所の一人暮らしの老女、足の悪い美術の先生、そして母が毎年流す、名前が書かれない灯籠。戦争を知らない中学生希未が大人たちからあの原爆の日の話を聞きます。生き残った人々はあの日の後悔とたたかっているのです。生きてさえいてくれればという言葉が心にささります。こちらも小石川図書館で読んでください。(^_^)